

平成19年度 リレー講義 「異文化間コミュニケーションー言語と他者理解ー」

全学科 1・2年次 選択 前期2単位 水曜日5限
コーディネーター 今井 敦

1. 概要

今日ほど、異文化に触れる機会の多い時代はない。それは、外国に滞在したり外国人に接したりという直接的体験のみでなく、印刷物や映画、放送、インターネットなど、メディアを通じた間接的異文化体験についても言える。かつて、多文化が混在するヨーロッパのような地域にのみ当て嵌まった状況が、今では地球全体のものとなった。通信や輸送手段の発達と普及は、昔であれば少数のみに許された異文化体験を誰にでも可能なものにした。当然、国の枠組みを超え、世界をまたにかけて活躍する人は、どの分野にも増えている。外国語力の養成はかつてなく重要となった。異文化体験とは、その文化の基盤となる言語を通じてこそ、先入観から免れた生きた理解へと繋がるからである。

本講義では、大学での勉学を始めて間もない学生諸君の為に、本学教員を初めとする外国人を含めた様々な方から、自らと外国語（それが日本語である場合もある）との関わりについて語って頂く。同じ言語であっても、どうアプローチするかによって、様々な機能が見え、その多層性が明らかになることが期待される。ある人は、言語はコミュニケーションの「道具」に過ぎない、と言うかもしれないし、他の人は、一つの考えを異なる言語で表現することは不可能だ、と言うかもしれない。そうした様々な言語観を、それぞれの立場から展開して頂き、学生一人一人に外国語との係わり方について自分なりに考えてもらいたい。

2. キーワード

異文化、コミュニケーション、外国語

3. 到達目標

この講義を通じて、画一的なもの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する姿勢を身につける。外国語を何のために学ぶのか、身につけた外国語力をどんな形で生かしていくのか、自分が外国語を学んでいくことの意味と目的を明確にする。

4. 授業計画（敬称略）

- 第1回 導入 - ガイダンス
- 第2回 近代日本の翻訳をめぐる（本田逸夫）
- 第3回 外国語の習得における感情と合理性（Claudia Marra）
- 第4回 他者理解の不可能性（岡野裕司）
- 第5回 数学、音楽、外国語、そして「ことば」（加藤幹雄）
- 第6回 第二、第三外国語への挑戦は人生を楽しくする（原田昭治）
- 第7回 日本語と私（Ian C. Ruxton）
- 第8回 移民国家において言語が果たす役割とは何か（八丁由比）
- 第9回 近代日中文化交流史一側面 - 中国人の日本留学に焦点を当て -（陳昊）
- 第10回「食」から入る中国語（板谷 秀子）
- 第11回 日本語を話す自分 - 本学留学生に聞く -（アブドゥハン 恭子）
- 第12回 外国史研究と異文化理解 - 言語の問題を中心に -（水井万里子）
- 第13回 それは好奇心、たぶん好奇心、きっと好奇心 - 日韓言語風景（桂林春）
- 第14回 まとめ

5. 評価方法

講義の中から5つ以上を選び、それぞれについてレポートを作成して提出する。合格点（60点）を越えたレポート5つの平均が最終的な評点となる。合格したレポートが5つより多い場合、上位5つを平均する。レポートによっては不合格になる場合もあるので、6つ以上のレポートを書くことを勧める。レポートのテーマなどについては、各講義の際に担当者より説明がある。各々のレポートの提出は、原則として各講義の2週間後の講義の際とする。

6. 履修上の注意点

希望者が120人を超えた場合は制限を行う可能性がある。その他の注意点は第一回目に説明する。

7. 教科書・参考書

各講義の際、ハンドアウト等が配られる。その他の参考書は講義担当者が紹介する。

8. 学生会時間

火曜5時限 16:10~17:40
今井敦研究室（内線3448）

科目名 リレー講義 「環境と社会」

全学科 全学年 選択 後期2単位 水曜日5限
コーディネーター 李 友娟

1. 概要

大量生産・大量消費・大量廃棄社会と呼ばれる今日、環境問題はもはや特定地域に限られたものではなく、全世界の人々の生活全般に関わるグローバルな問題となった。特に、20世紀後半以降、生態系の崩壊というきわめて深刻な問題に直面した人々は、このような問題を人類全体の問題として捉え、国際的に協力し合いながらその対策を模索するようになった。本講義の目的は、「環境」と関連する様々なテーマを色々な観点からアプローチすることによって、現在我々がどのような現実と直面しているかを理解し、また社会の一員としてこれからどう行動すべきかについて真剣に考えてみる。また、これを通じて、「常に環境を考える」という環境に対する強い意識をもつと同時に、現代社会の複雑な構造や多国間による国際協力関係に対する理解を深めることにある。

2. キーワード

社会、環境、人

3. 到達目標

環境問題を通じて現代社会の複雑な構造と国際協力の重要性を認識し、今後社会の主役としてこの問題に対処していくための基本的な知識を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法経済学の観点からみた環境問題（細江守紀：九州大学教授）
- 第3回 環境と政治（本田）
- 第4回 経済成長と環境に対する認識（伊ヶ崎 大理：熊本学園大学助教授）
- 第5回 環境をめぐる社会的ジレンマ（井上）
- 第6回 石油産業の現状と環境問題（坂井茂夫：㈱セキツウ福岡市局長）
- 第7回 イギリス文学における風景と環境（虹林）
- 第8回 日本の環境行政（大内田康徳：広島大学助教授）
- 第9回 米国と環境問題（八丁）
- 第10回 環境リスク論（中村）
- 第11回 都市社会と工業化 - 19世紀ロンドンを中心に -（水井）
- 第12回 環境問題が教育に与えたインパクト（東野）
- 第13回 環境施設と住民の対応 - NIMBYとは何か -（李）
- 第14回 まとめ

5. 評価方法・基準

基本的にレポートで評価する。前半（第2回～第7回）より3本以上、後半（第8回～第13回）より3本以上提出し、上位6本の平均60%以上を合格とする。内容や提出要領などについては講義中に説明する。

6. 履修上の注意

注意事項は第1回目のガイダンスで説明する。

7. 参考文献

講義ごとに資料の配布や教材の紹介を行う。

8. オフィスアワー

火曜日14:00~16:00